

# 令和4年度 第1回 学校関係者評価委員会 議事録

**期 日** 令和4年6月30日(木) 10時  
**場 所** 姫路福祉保育専門学校 会議室  
**出席者** 吉岡健一委員長・成山文夫委員・田靡みつ子委員・水野直哉委員・豊藏宏委員  
下林五枝理事長・前田真吾学校長・三村由佳副校長・栄井睦保育こども学科長  
(欠席)・鳥羽由里江介護福祉学科長

## 議事記録

### 開会

定数を満たしていることを宣言の後、学校長により開会が宣言された。  
理事長並びに委員長の挨拶  
理事長より、委員各位へのお礼と学校運営に関する所感が話された。  
委員長より、本日の開催趣旨と審議内容についての説明がなされた。

ここより委員長が進行する。

### 1 経過概要及び資料説明

別紙資料に沿って、校長より説明を行った。

### 2 本校の運営の質向上における問題点について

委員より下記のような意見が寄せられた。

- ・介護福祉士国家試験の留学生の合格率の高さは非常に素晴らしく、全国第3位という実績は大いに評価される。
- ・生徒募集に関しては、少子化や大学の入りやすさ等、専門学校にとって厳しい状況が続くがさらに特徴づけをおこない、改善しなければならない
- ・保育こども学科の学生募集に関して、幼稚園免許が取得できないことが不利な状況となっているが、一方で障害者施設の需要の高まりは追い風になっているのではないかと。障害児施設や病児保育など、保育士免許だけで対応できることを、もっと前面に押し出すのも有効ではないかと。
- ・学修成果の面で中途退学者が報告されているが、学校経営という観点からは大きな損失となり、経営を圧迫するものである。できる限り退学者を出さない指導の在り方を一層検討することは、学校の生き残りをかけては避けることはできない問題である。
- ・さらに広い範囲の国から入学してくる留学生が増える予定ということだが、学習面の指導だけでなく、生活全般のサポートが今以上に仕事の量と種類が増えることが予想される。職員が、留学生の国のこと(地勢、歴史、風土、生活習慣等)を学ぶ機会が必要ではないか。一人ひとりの生活背景を知ること、指導や支援内容を工夫することができるのではないかと。
- ・留学生を入学させている養成校はいずれも、サポートに苦慮しながら、手をかけて卒業させている。特定技能を採用する施設も増える中、これからもっと学校としての支援の在り方が問われることになっていくだろう。
- ・一方、日本の若者の気質も、粘り強さに向け、幼稚化しているという声は強くなっており、育成段階から意識していかなければ、この問題は改善の方向には進んで行かないと思われる。

ここで委員長より意見の総括と進行の協力のお礼が述べられ、進行は校長にもどされた。

### 3 今年度の会議日程

次回の開催は10月19日(第2回)と2月22日(第3回)を予定

### 4 閉会

理事長よりお礼が述べられた後、閉会された。

## 第2回学校関係者評価委員会 議事録

期 日 令和4年10月24日(木) 13時～14時30分  
場 所 姫路福祉保育専門学校 会議室  
出席者 吉岡健一委員長・成山文夫委員・田摩みつ子委員・豊藏宏委員  
下林五枝理事長・前田真吾学校長・三村由佳副校長・栄井睦保育こども学科長  
(欠席) 水野直哉委員・鳥羽由里江介護福祉学科長

### 議事録

下記資料に沿って、上半期の活動について校長が説明し、各委員による評価がおこなわれた。

#### 1 在籍移動

		[1年生]	[2年生]
介護福祉学科	日本人学生	9名(増減なし)	3名(1名休学)
	留学生	8名(増減なし)	8名(増減なし)
	委託生	5名(増減なし)	6名(増減なし)
保育こども学科	日本人学生	8名(2名退学)	8名
	委託生	2名(1名退学)	

- ※・退学者は、教師が保護者も含め面談を重ねたが、本校で学ぶ姿勢に欠け、保育士に必要な資質に欠けていると判断したため、本人からの申し出を受理した。
- ・卒業後、介護及び保育の現場に送るプロフェッショナルを育てるという、養成校としての責任を全うするためには、凜とした教育理念を軸に学校を運営しなければならないと自覚している。委員からは、本校が培ってきた「個々の学生を大切に丁寧な指導」という校風と魅力を今後も守り、受け継いでほしいという意見をいただいた。

#### 2 中間報告と評価

##### (1) 生徒募集に関する特徴づけ及び改善

###### ①ホームページの再リニューアル

###### ②業者ガイダンスの精選

	回数	来校状況	費用対効果	入学者
令和3年度	311回	20回	3993円/1人	
令和4年度	196回	18回	3057円/1人	6人

###### ③学校訪問の充実

59回(10/14現在)

地域：西播・・夢前、姫路商業、飾磨、網干、網干(定・通信)  
上郡、佐用、山崎、龍野北、千種、姫路別所  
日ノ本、赤穂、伊和、神崎、市川

東播・・松陽、松陽(定)、多可、西脇北、農業(定)

但馬・・村岡、浜坂、香住、和田山、但馬農業

神戸・・神戸北

- ※・学校訪問のエリアが播磨、但馬地域に多いのは、明石以東の高校生は神戸方面への進学が中心で、西向きに進学する傾向が極めて弱いことによる。
- ・広報活動の新規取り組みは、今後、その効果の検証を徐々に行い、次の施策につなげていく必要がある。その検証を基にして、取り組みの整理が必要になってくるという指摘をいただいた。

##### (2) 保育こども学科の幼稚園免許取得の制度改善及び保育士免許だけで就職できる機会

(例；障害児施設や病児保育など)に力点を置いた募集

###### ①姫路日ノ本短期大学との継続した協議

###### ②障害児教育に関するセミナー等の開催の研究に着手

- ※・幼稚園教諭免許取得のしくみづくりは、姫路日ノ本短期大学と進めているが、単位の互換性の擦り合わせがなかなか難しい状況である。他大学にも打診したが、提携校以外からの受入はなく、新規入学扱いとなり、費用及び時間の面から厳しい状況である。一方、委員からは、取得に関する強い気持ちがあれば、社会人になってからでも十分に対応できる。保育士としての基礎的な資質の向上が何より大切であるという指摘もいただいた。
- ・現在、学童保育の在り方について研究を進めている。問題点が多くあり、改善を望む声も多いが、法律面、予算面、人材の確保などの規制もあり、改善に向けて進める上で難しい点も多々ある。しかし、養成校として関われることもあるので、セミナー形式が中心になると思うが、さらに検討していきたい。

(3) できる限り退学者を出さない指導の在り方の検討

- ①テストの作問の改善（例；記号選択の導入など）
- ②小テストによるこまめな指導
- ③早期の補習による予防策の充実
- ④安心して学習に打ち込める生活環境の在り方の研究

- ※・これまで通り、丁寧な指導を継続させる。

(4) 留学生支援の質の向上

- ①広範囲から入学してくる留学生への生活全般のサポートの充実  
例；米、野菜（B級）の支給、スポーツ等の機会提供を検討中
- ②職員研修を検討中；留学生の国の地勢、歴史、風土、生活習慣等を学ぶ機会
- ③スポンサー施設からの生活費補助のしくみづくりを検討中

- ※・生活面の安定は学習面にとっても大切な要素なので、現在の取り組みは評価できる。継続していくことは大切であるという評価をいただいた。

(5) 留学生獲得のための取り組みの拡大

- ①日本語学校、本校、施設の三位一体の育成のしくみ構築
- ②提携する日本語学校の拡大  
京都・・京都民際、活学書院          大阪・・バイオメディカル、ACC日本語  
奈良・・エイム奈良国際          岡山・・倉敷外語  
香川・・フューチャーデザイン日本語  
兵庫・・創智、SBC、国際語学学院、日本グローバルアカデミー

- ※・三位一体のしくみの充実と日本語学校及び施設の開拓は、学生募集にとっての軸となり、さらに進めていくことが必要という評価をいただいた。

(6) 日本の若者の粘り強さ欠如、幼稚化への対応

- ①学校外での活動を重視（ボランティアポイント制）
- ②対話の機会の拡大

- ※・体験活動を増やしていることが、学生の成長に大きく効果をあげている。今の学生たちの気質の特徴を鑑み、継続させていくことの必要性を評価された。

3 次回会議予定    令和5年2月22日（水）

4 吉岡委員長挨拶

学生たちのエンパワーを引き出すことを軸に教育活動が展開されていることは大いに評価に値する。地域密着型の学校運営が求められる時代背景を受けて、ますます教育活動の「見える化」が大切になることの認識を一層深めることが必要である。

生徒数の減少を考え、今後の経営では、事業費、人件費等の削減や効率化を一層進める視点が必要である。正規職員と非正規職員の比率の見直しなども検討すべきで。